

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800238		
法人名	医療法人 輝栄会		
事業所名	グループホームトリニテ松崎		
所在地	福岡県福岡市東区松崎2-7-21		
自己評価作成日	平成25年3月21日	評価結果確定日	平成26年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou.pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成26年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員とご入居様が家族の様に共に過ごし、明るく楽しくご家庭のリビングに居るような安心できる空間づくりを心掛けています。出来ない所のお手伝いに留め、機能低下しない様に心掛けています。ご利用者様の生活歴やお好きなものに考慮し、個別外出支援に力を入れています。ご家族との繋がりを大切に、レクなどの声掛けにて、面会に来て頂き易い場を設けています。当ホームは医療法人が母体ですので、体調管理もしっかりとした医療連携にてフォローし、重度化した場合やある程度の医療ニーズが必要な方でも介護できる体制を構築しています。小規模多機能居宅介護施設とサービス付高齢者向け住宅が併設しており、在宅生活が困難になれば同じ建物の中での引越越しできる環境があり、環境変化による認知症の進行も少ないと思われます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームトリニテ松崎」は輝栄会病院を母体として、地域の認知症の方への支援のために、小規模多機能、高齢者住宅と併設で開設された複合型介護施設である。目の前には公園もあり、花見や散歩なども行きやすく、夏に開かれる自治会の祭りには事業所として出店も行っている。母体が救急病院であることから、医療支援に優れており、何かあればオンコールで迅速な対応が出来ており、看護師が常駐することで多少重度化しても施設全体で一体的な支援が行える。入居者にも残存機能を活かしたケアを心がけ、支援も最小限に留めて、掃除、洗濯、料理の手伝いなどそれぞれに合わせた要望を叶えて意欲を引き出すように働きかけており、個別ケアにも力を入れてマンツーマンでの外出も支援し、外食や買い物にも柔軟に対応している。法人とも共同して人材育成にも取り組む、目標管理シートによるキャリアアップを行っている。今後も地域福祉を支える事業所として益々の活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	トリネテ独自の理念をつくり、リビング、事務所に設置、また、名札にも貼り、理念の共有・実践に取り組んでいる。	昨年の夏頃に、職員皆で話し合っ、トリネテ松崎独自の理念を作り上げた。リビングの掲示や名札の裏にも記載しており、日頃から眼に入るようにしている。トリネテという名称に込められた三位一体のケアが入れ込まれ、地域にも開かれたホームの実践につなげている。	独自理念を作成してから一年が経つことで、改めて振り返りの機会を設けたり、地域密着型としての意義をふまえた関わり、具体的な目標などが話されることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヵ月毎の地域運営推進会議の開催と、地域行事(夏祭り・グランドゴルフ・草むしり等、また、敬老会等公民館行事)に参加している。	町内会にも加入して行事にも参加し、地域の夏祭りには出店もして、入居者と一緒に看板作りなどを行っている。回覧板で周知して、地域の方も招いた入浴介助の勉強会も行い、30名ほどの来訪もあった。相談を受けることもあり、気軽に尋ねてくれるよう挨拶も積極的に交わしている。	認知症の理解もしてもらえような周知活動や、情報発信がなされることも期待したい。また、ロビーやフロアなどの空きスペースを地域の作品展示に使ってもらったり、更に開放的な施設を目指してはどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方向けに、入浴についての勉強会を開催した。また、2ヵ月毎の地域運営推進会議の参加いただき、対応事例等を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者様やご家族からのご要望、また、地域の有識者の意見を聞き、実践してきた。	併設の小規模多機能とは同日に個別で開催しており、入居者、家族、自治会長、民生委員のほか、地区内の他事業者とも相互に参加している。アンケート結果、行事、事故報告などを行い、意見やアドバイスも出され発言も多い。議事録は個人名を伏せて、閲覧できるように玄関先に掲示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加して頂き、都度の報告をしている。市が開催している研修に積極的に参加し、交流に努めている。	運営推進会議も毎月案内して、議事録報告も郵送で行う。市主催の研修でも関わる機会があり、介護申請なども窓口を訪ねて行っている。	担当課と関わる機会が少ないので、郵送している報告などを持参したり、顔を合わせる機会を増やしてコミュニケーションを図ってはどうだろうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向け取り組んでいるが、ご家族の希望にて1名4点柵、Y字拘束帯を使用している。事故防止・身体拘束委員会を組織し、毎月事例報告し検討・対策をしている。夜間は人感センサーを必要な方のみ使用している。(日中ご家族希望で1名)	危険行為の防止の為、身体拘束の事例があるが、家族や医師とも相談して同意を得た上で、経過記録をとり毎月見直しも行っている。委員会で話し合った事例は申し送り、資料回覧で共有し、外部研修の際にはレポートによる伝達もしている。玄関施錠は夕方以降のみにし、徘徊癖のある方には見守りや付き添いで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ちょっとした傷があった際も事故報告書を作成し、原因と対策を話し合い、再度の事故防止に繋げている。小さな内出血に関しては、内出血報告書を用いている。		

H25自己・外部評価表(GHTトリニテ松崎)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加。実際に権利擁護事業を活用しているご入居者様もいる。また、制度紹介のパンフレットを準備し、玄関に設置している。	入居後に成年後見制度の利用に至った方がおり、他にも利用を検討している方もいる。日常生活自立支援事業についても活用があり、関係者とのやりとりを行っている。説明、配布用のパンフレットも準備され、研修などで、職員も制度に関しての理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にかかる費用や毎月の費用は料金表を用いて説明。オムツ代や病院受診等のその他の費用についても説明を行い、また、いつでも質問等お受けする旨お伝えしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族要望や提案等ある時は、ご入居者様伝達ノートに記入し、漏れなく申し送りを行っている。また、面会時等に日頃の状況等報告している。毎月新聞を作成し、全体の報告等もやっている。	事業所独自で毎年満足度調査をしており、結果をまとめて報告し、運営推進会議でも取り上げている。ユニットごとのお便りも毎月発行し、行事予定やスタッフ紹介をする他、担当者からの報告もされている。家族などから意見のあった時は話し合っって納得のいくように説明しており、遠方の方でも月1回の面会などでやりとりがあり、意見を聞き取っている。	家族との関わりを深めていくために、家族会の開催や、行事との同日開催で食事会や懇親会などを企画されてはどうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット職員会議で職員の意見や提案を集約し、隔週の理事長参加の幹部会議にて報告、業務改善に取り組んでいる。	会議はユニット毎に開き、参加出来ない職員も事前に意見を出して提案している。日頃は業務日誌を使って申し送りで情報共有し、ケアの改善にもつなげ、カンファレンスによって全体での認識を統一、再確認している。職員からの提案は積極的に試して運営改善しており、個別面談や職員アンケートによっても意見があげられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「目標管理シート」を用い、職員一人一人に目標を持ってもらい、それに向けて実践して行けるように図っている。また、達成度により、賞与に反映されるシステムとなっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員は男女とも就業している。管理者と職員の定期的な面接を行い各自の目標や相談等聞き取りを行い、自己実現の後押しを出来る体制を構築している。また、相談しやすい関係作りを心掛けている。	経験のある職員に管理業務の補助をしてもらったり、男性の職員や、若い職員も多い。子連れでの出勤も出来るようにしている。無資格でも能力を見て採用し、研修などでスキルアップの機会ももっている。職員同士でコミュニケーションもとってシフト調整や、休憩時間も確保されている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職場内の会議にてプライバシー保護について教育・指導を行った。今後も研修などに参加予定。	市などの外部研修の案内があるときには職員が参加しており、研修後は報告書の回覧を行っている。昨年は市主催の権利擁護の研修に参加した。	研修後はレポートによる報告を行っているが、伝達研修や、資料回覧によっても詳細に研修内容を伝えていくことが望まれる。

H25自己・外部評価表(GHTトリニテ松崎)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修、施設外研修に積極的に参加している。また、入職後2か月間は2人体制で勤務を組み、細かいところまで指導している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に登録し、他グループホームとの意見交換の場に参加している。また訪問診療の先生主催の勉強会にも積極的に参加し、意見交換、相談等を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当職員を付け、ご本人様の思いを聞き取り、わがままを言える関係作り、環境作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式を活用し、ご家族から生活歴、暮らしの情報、悩み・要望・願いをご記入頂きケアプランに落とし込んでいる。また、面会時には必ず近況報告を管理者か担当職員から行なっている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暮らしの情報シートの情報と、ご本人様との面談等での情報で出来る支援を決定しケアプランを作成している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	皆さんで食事の準備や片付けをして頂いたり、洗濯物たたみをして頂いたり。職員は出来ない所のお手伝いに留め、機能低下を防ぎ、お互い助け合いわがままを言える関係作りを心掛けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などには必ず声掛けし、面会に来て頂き易い場を作っている。また、家族の役割まで職員がうばわない様に、家族が出来る所はして頂いている。(オムツの購入等)		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ病院への受診介助を行っている。また、ご自宅への個別外出支援や、なじみのお店や場所への個別昼食外出支援など定期的に行っている。	訪問しやすいような環境を作り、友人知人の来訪もあり、家族からも訪ねやすいとの評価を受けている。個別ケアによって住み慣れた自宅の様子を見に行ったり、外食に行くこともあり、難しい場合でも家族と協力して支援している。单身の方には、特に注意して積極的な支援を行っている。	

H25自己・外部評価表(GHTリニテ松崎)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーションは集団で行う為、職員が介入しながらレベルの違いを超え、関わり合い、和気あいあいとした関係作りをお手伝いしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、いつでも遊びに来て下さいとご家族様に声掛けをしている。入院時は定期的にお見舞いに行き、ご本人様・ご家族様の思いをお聞きしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、生活歴、暮らしの情報をケアプランに落とし込んでいる。本人のわがままを聞く個別レクに取り組んでいる。	アセスメントにセンター方式の一部と、「暮らしの情報シート」を活用し、半年ごとに見なおしている。家族からの情報も引き出しながら、担当職員による現場の意見も取り上げ、日頃の様子も読み取り、アセスメントに随時情報を追加している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前のアセスメント作成時に詳しくご家族より聞き取りし、また、「暮らしの情報シート」への記入にもご協力頂いている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、ご入居者様伝達ノート、業務日報の申し送り欄を活用し、職員間の情報の共有に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを検討する際、事前にご家族へ要望の聞き取りを行い、また、毎月行うユニット会議にて全職員に意見、提案を聞いて、担当職員が責任を持ってケアプランの素案を作っている。	職員は担当制で、アセスメントやプランの素案づくりから関わり、見直し時には家族からの聞き取りを行い、ユニット会議の中のカンファレンスでそれぞれの情報を話し合っている。毎月のプラン実施項目はデータで管理し、リーダーが記録することで毎月のモニタリングにもつながり、担当者と計画作成が二人一組で関わることで職員のスキルアップもなされていた。ケアプランと実施記録は同じカーデックスに綴じることで、一体的に確認できるようにされている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々工夫、改善し、ケース記録、ご入居者様伝達ノート、業務日報の申し送り欄を活用し、職員間で情報を共有し、ユニット全員で実践していける様に努めている。それをケアプランに落とし込んでいる。		

H25自己・外部評価表(GHTリニテ松崎)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居様様のわがままに応じて、個別に多様な外出支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	徒歩圏内のパン屋さんや、コンビニ、レストランへ個別に外出支援を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診介助を行っている。また、訪問診療にも来て頂いている。病院との連絡ノートを作り、日々の変化を先生へもれなく申し送れるように気を付けている。	元々のかかりつけ医を大事にし、母体病院以外でも柔軟に対応している。提携医の場合は2週に1回訪問診療があり、定期受診も事業所の支援で通院している。基本的には看護師が支援し、必要な方には個別に連絡ノートを作り情報を報告、申し送りノートによって所内で共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム職員として看護師配置をし、協働してケアを行っている。また、夜勤帯も看護師と連絡をとれる体制を整えている。また訪問診療時は必ず看護師が対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院であり、入院治療が必要な際は、受け入れ態勢が整っている。また、かかりつけ病院やご家族希望の病院への入院に備えて、看護サマリーを全員分準備している。かかりつけ病院主催の勉強会に参加し、相談をしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の意向により、終末期をホームでの生活を望まれている方がいる。対応方法をマニュアル化し、柔軟に緩和ケアが出来る体制を構築中である。また、看取りの経験が深いかかりつけ医の勉強会に参加し、知識を深めている。	今までに看取った事例はないが、最期を希望している利用者があり、外部のかかりつけ医とも相談して勉強会を行った。運営母体が病院であることで、緊急対応にも強い。ターミナルケアの勉強会は2ヶ月毎にし、事例検討も行っている。今後も希望する方がいれば出来るだけのことをしていく方針であり、現在、具体的な指針やマニュアルを作成しているところである。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設後に1次救命処置の研修を行った。外部研修にも参加している。		

H25自己・外部評価表(GHTリニテ松崎)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル整備と避難訓練を定期的に行い、地域住民にも参加を呼びかけている。非常食の備蓄も備えている。また、居室の入り口に護送と独歩が一目で分かる様にお花を取り付けている。	施設全体で年に2回防災訓練を行い、内1回は夜間を想定し、消防署も立ち会っている。避難時に支援が必要な方を識別するために目印も工夫している。新入職員には避難手順を伝えている。地域にも案内を行い、設備業者も毎回来てもらっている。AEDの設置、備蓄物も地域の分を含めて100名規模で備えられ、運営推進会議でも通知されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような声掛け、介助に努めている。また、認知症により、その場にそぐわない言動、行動があっても皆が笑って受け入れる関係作りが出来ている。	相手を否定しない言葉かけを心がけ、接遇やマナーに関しての外部研修、伝達講習も行っている。日頃の指導や「利用者伝達ノート」を利用して、それぞれの状態によって適宜対応も変えて、利用者ごとの声掛けや具体的な事例の共有もしている。個人情報にも配慮し、名前や写真の掲示も気をつけられている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人お一人がわがままを言える関係作りを担当職員と出来ている。わがままに合わせた個別対応も行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝起きるのが苦手な方に、朝食を居室で召し上がって頂いたり、柔軟に対応している。また、テレビがお好きな方にはご本人様専用の席をテレビ前に設けて、リモコン操作もお任せし、夜も自由に見て頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は自由に着こなして頂いている。また、個別で若いころから使用しているカツラを着用する声掛けを行っている。個別外出にて化粧品等購入し、化粧を行う方もいる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、配膳、後片付けを職員と一緒にやっている。また、定期的に手作りで食事、おやつ作りを皆さんで行っている。	業者からの配食を利用しているが、買い物や配下膳など手伝えることは手伝ってもらい、おやつ作りや月に数回の調理レクと一緒に調理もしている。職員も同じものを食卓と一緒に食事し、食べたい物の要望は個別に外食などで対応もする。行事の際はオードブルの仕出しなどを、とることもあり、食事を楽しんでもらっている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれたメニューを業者から仕入れている。嚥下能力に合わせ食事形態への変更も可能。個別に嗜好に合わせた飲み物を提供している。		

H25自己・外部評価表(GHTトリニテ松崎)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、レベルに合わせて最後まで声掛けし、ご自分で行えるところまで行って頂くよう支援をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意が薄れた方には定期的に声掛けを行っている。	残存機能を活かした取組を心がけ、日中は積極的に布パンツにし、夜間でもトイレ介助をすることで、パットも減り、排泄機能改善にもつながっている。全員分の排泄チェックを1日1枚のチェック表で管理し、排泄のリズムや水分摂取量もチェックし、職員からの提案も自発的に行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には入浴時の腹部マッサージや水分補給の強化に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきに声掛けを行って午後入浴しているが、希望者は毎日の入浴、夕方入浴も可能。毎回お湯を貼り替えている。好きなシャンプーやボディソープを使用いただいている。季節に応じてゆず湯等も提供している。	脱衣場とトイレがつながっており、個浴に程よい広さの浴室で、間口も広く入りやすい。概ね、昼から夕方にかけて、週3回の入浴をしてもらい、希望があれば毎日でも対応している。拒む方にも時間などを変えて対応し、順番の希望も聞き入れている。介助が必要な方には1階にある機械浴を使うことも出来る。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝は希望に応じて自室にて休んでいただいている。また、不安が強い方には就寝介助時にナースコールの説明を毎回行い安心して休んでいただくよう心掛けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人のお薬情報をまとめている。また処方変更等あれば、ケース記録の他、ご入居者様伝達ノート、業務日報の申し送り欄を活用し、漏れなく申し送れる体制作りを構築している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る力に応じて、生活の中で役割を持って頂いている。お一人お一人のやりたいこと、したい事に応じて個別外出支援を行っている。		

H25自己・外部評価表(GHTトリニテ松崎)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出支援を積極的に行っている。また、晴れた日には日光浴などを行っている。	月1回の個別ケアによって外食や買い物、自宅周辺のドライブなどを行う。日常的にも目の前の公園やコンビニへの散歩をしており、併設事業所の車も利用して、全体の外出レクなども行っている。車いすの方も同じように外出を楽しみ、入居者の中には裏庭の畑の世話などを手伝う方もいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理している方がいる。管理が困難な方は、ご本人様とご家族様から委任を受けホームにて管理。その際面会時等にご確認いただき、領収書をお渡している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者様からのご希望に応じ、ホームの電話を使用頂いている。また、定期的にご家族や親せきの方へ手紙を書き送る支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は温度差、湿度差が無い様に気を付けている。また、音の混乱がおきない様にしている。夜間は照明を暗くし、安眠を促している。また、季節ごとの貼り絵、塗り絵等展示している。	2つのユニットはドアで仕切られるが、開放すると回廊式になり、室内でも安全に歩行訓練も行える。事業所内はフローリング模様の床貼りと、明るい色の壁紙、カーテンで温かみのある雰囲気になっている。ユニットでカラーは違うがシンプルな飾り付けで、入居者も落ち着いた時間を過ごされていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人お気に入りの席に座りゆっくりと過ごせる空間を心掛けている。また、制作レク時には集まり、作業して頂いている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様のなじみの家具を持ち込んで頂き、ご自宅のご自身の部屋の様子に落ち着いてい過ごせるように居場所づくりをしている。	居室の窓外から公園の桜や緑も望め、季節の移り変わりを感じることが出来る。介護ベッドと押し入れが備え付きで、壁際のレールを使って写真や壁飾りなども自由に飾られる。使い慣れたものも持ち込めテレビやソファを置かれる方もいた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は「出来ない所のお手伝い」に留め、出来るだけご自分から行なって頂けるように、声掛け、見守りをするように心掛け、機能低下による筋力の低下を防いでいる。		